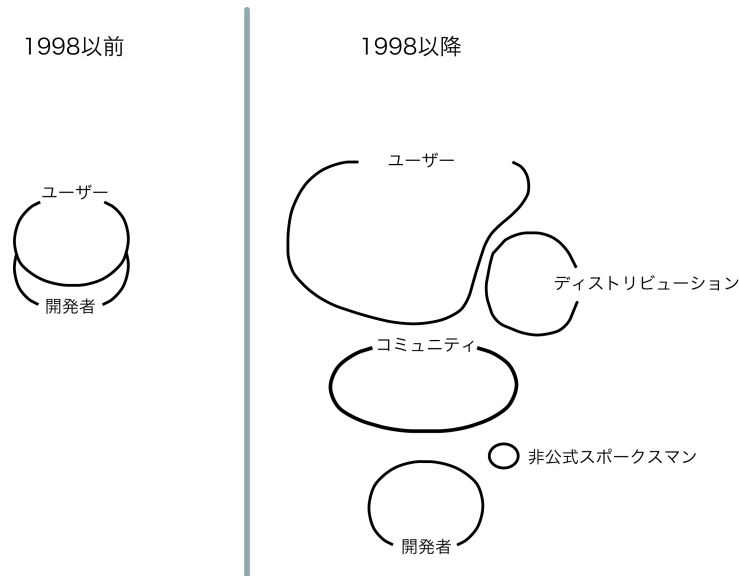


資料：日本のオープンソースプロジェクトの構造的な特徴

2002年 オモイカネ株式会社

オープンソースの一般的な特徴

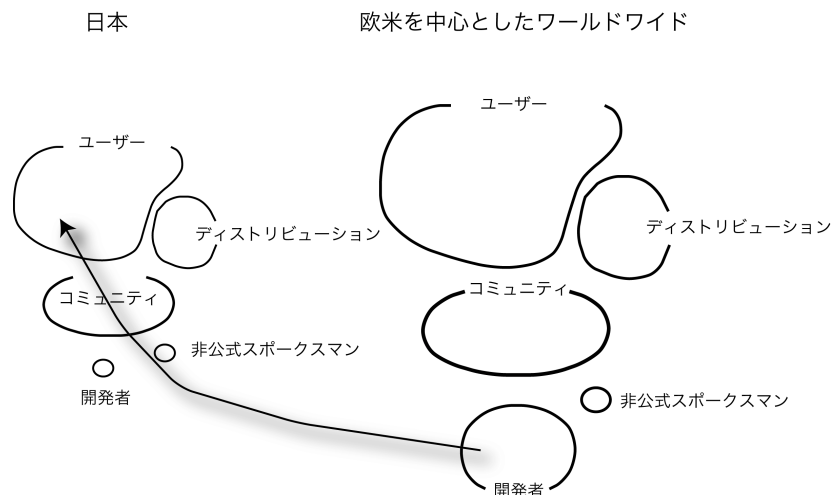
一般にオープンソースの生産者・利用者グループは以下のように構成されていると考えることができる。



1998 年前後以前は、利用者と開発者はほとんど一致しており、自己の利用領域を改善することで発展してきた。1998 年前後以降は、複数のグループに分けられるが、リソース (開発物) の配分と開発者へのフィードバックの大きい循環が生まれて拡大してきた。

日本の特徴

日本の場合開発者集団が非常に小さいことに特徴がある。日本の開発者集団が小さい主な理由は IT 教育の弱さである。オープンソースの生産の主力を担うのは、伝統的に大学生から大学院生までの工学・理学系の学生であるが、コンピューターサイエンスの教育総量はだいたい米国比で 1:7 ~ 1:20 程度であると推測される。この他にもインターネット立ち上げ期の回線コストの高さ、人口の差も原因と考えられる。

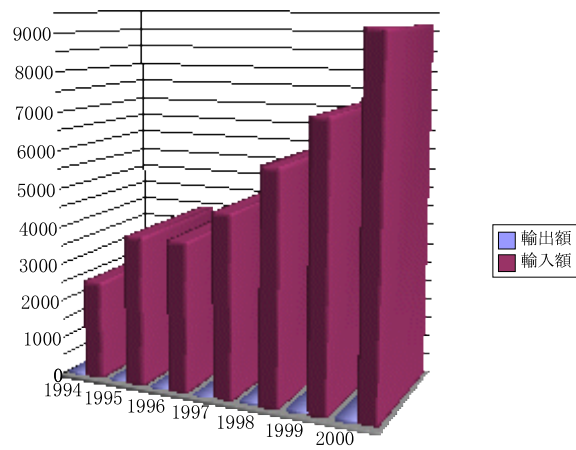


日本の場合原則としてオープンソースは常に上図の矢印のルートで流入する。このため日本のオープンソースプロジェクトを成功させるためには以下に注意する必要がある。

1. ユーザーやコミュニティの規模が十分あることは必要だが十分ではない。
2. 日本の開発者を利用せざるをえない場合は、相当強いインセンティブが必要になる。

参考：コンピュータソフトウェアの輸出入額

JEITA ソフトウェア輸出入統計 <http://it.jeita.or.jp/statistics/>より



単位：億円